

平成 2 4 年 度

養 父 市 決 算 審 査 意 見 書

公 営 企 業 会 計

養 父 市 監 査 委 員

写

養 監 第 31 号
平成 25 年 8 月 13 日

養父市長 広瀬 栄 様

養父市監査委員 上山 忠彦

養父市監査委員 西谷 昭徳

平成 24 年度公営企業会計決算審査意見書

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により、審査に付された平成 24 年度養父市水道事業会計、養父市氷ノ山国際スキー場事業特別会計、それぞれの決算書並びに関係諸帳簿、証拠書類等を審査した結果、次のとおり意見を付する。

第 1 審査の対象

- (1) 平成 24 年度養父市水道事業会計決算
- (2) 平成 24 年度養父市氷ノ山国際スキー場事業特別会計決算

第 2 審査の期間

平成 25 年 6 月 25 日から 7 月 29 日まで

第 3 審査の方法

決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属明細書が法令に準拠して調製されているか、計数は正確であるか、更に事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているか、かつ効率的に執行されたかに主眼をおき審査を実施した。

併せて事業経営内容の実情把握のため、前年度との比較による係数分析を行い、各事業の動向と推移を検証した。

第 4 審査の結果

公営企業会計の決算審査の結果は、以下のとおりである。

審査に付された各会計の決算諸表の記載様式及び記載事項は、法令に従って作成されており、その計数は正確であり、経営状況及び財政状況をおおむね適正に表示している。しかし経営状況は極めて厳しい状況にあり、今後の運営には大胆な見直しが必要である。

目 次

ページ

第 1 養父市水道事業会計 1

第 2 養父市氷ノ山国際スキー場事業特別会計 5

第1 養父市水道事業会計

1 総括

平成24年度の水道事業決算額は事業収益196,914千円、事業費用209,428千円で差し引き純損失が12,514千円となり、前年度繰越利益剰余金63,035千円から純損失分を差し引いた当年度末処分利益剰余金50,521千円を計上している。

2 事業の概要

平成24年度の事業概要は次表のとおりである。

区 分		平成24年度	平成23年度	前年度比較
計 画 給 水 人 口 (人)		7,200	7,200	0
給 水 人 口 (人)		7,622	7,736	114
給 水 戸 数 (戸)		3,267	3,285	18
配 水 量	年 間 総 配 水 量 (m ³)	1,101,208	1,127,074	25,866
	1 日 最 大 配 水 量 (m ³)	3,788	4,573	785
	1 日 平 均 配 水 量 (m ³)	3,017	3,079	62
有 収 水 量	年 間 総 有 収 水 量 (m ³)	967,817	980,346	12,529
	1 日 平 均 有 収 水 量 (m ³)	2,652	2,679	27
	有 収 率 (%)	87.9	87.0	0.9
供 給 単 価 (円/m ³)		198.93	200.14	1.21
給 水 原 価 (円/m ³)		215.56	233.15	17.59

本年度の総配水量は1,101,208 m³と前年度に比べ25,866 m³減少し、1日平均配水量も前年度に比べ62 m³減少の3,017 m³であった。増減率は2.0%で、若干前年を下回った配水量であった。

また、年間有収水量は967,817 m³と前年度に比べ12,529 m³減少し、1日平均有収水量も前年度に比べ27 m³減少の2,652 m³となった。有収率は配水管損傷等による大きな漏水はなく、0.9ポイント上昇し87.9%となった。

3 決算状況 (税抜き)

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成24年度	平成23年度	増減額	増減率
1 款 水道事業収益	196,914,319	211,364,805	14,450,486	6.8
1 項 営業収益	193,793,661	197,508,435	3,714,774	1.9
2 項 営業外収益	3,120,658	13,856,370	10,735,712	77.5
1 款 水道事業費用	209,427,913	229,211,928	19,784,015	8.6
1 項 営業費用	189,303,228	207,917,587	18,614,359	9.0

2項 営業外費用	19,457,493	20,807,576	1,350,083	6.5
3項 特別損失	667,192	486,765	180,427	37.1

(収 入)

平成 24 年度の水道事業収益は 196,914 千円となり前年度に比べ 14,450 千円 (6.8%) 減少した。主な要因は、給水収益の減少と前年度あった保険金収入 (漏水事故分) が影響している。

(支 出)

平成 24 年度の水道事業費用は 209,428 千円となり、前年度に比べ 19,784 千円減少した。主な要因は、前年度の漏水事故による賠償金の支出によるものである。

(2) 資本的収入及び支出 (税抜き)

資本的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
1 款 資本的収入	7,000,000	0	7,000,000	皆増
1 項 企業債	7,000,000	0	7,000,000	皆増
2 項 固定資産売却代金	0	0	0	0
1 款 資本的支出	71,595,249	77,219,636	5,624,387	7.3
1 項 建設改良費	7,437,000	8,647,000	1,210,000	14.0
2 項 企業債償還金	64,158,249	68,572,636	4,414,387	6.4

資本的収入は、北近畿豊岡自動車道関連の水道管布設替工事の財源として、企業債の借入を行ったもの。

資本的支出は、建設改良費が国木地内の同水道管布設替工事と企業債償還金である。

4 損益計算書 (税抜き)

比較損益計算書は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
営業収益	193,793,661	197,508,435	3,714,774	1.9
給 水 収 益	192,531,961	196,206,352	3,674,391	1.9
その他の営業収益	1,261,700	1,302,083	40,383	3.1
営業費用	189,303,228	207,917,587	18,614,359	9.0
原水及び浄水費	26,639,369	28,318,622	1,679,253	5.9
配水及び給水費	20,393,646	26,076,726	5,683,080	21.8
総 係 費	15,946,098	35,639,239	19,693,141	55.3
減 価 償 却 費	117,351,742	117,196,114	155,628	0.1
資 産 減 耗 費	8,838,163	529,265	8,308,898	1,569.9

その他営業費用	134,210	157,621	23,411	14.9
営業利益	4,490,433	10,409,152	14,899,585	143.1
営業外収益	3,120,658	13,856,370	10,735,712	77.5
納付金	1,466,665	1,695,237	228,572	13.5
雑収益	1,601,988	1,609,340	7,352	0.5
その他の営業外収益	52,005	10,551,793	10,499,788	99.5
営業外費用	19,457,493	20,807,576	1,350,083	6.5
支払利息	19,457,493	20,265,014	807,521	4.0
雑支出	0	542,562	542,562	100.0
経常利益	11,846,402	17,360,358	5,513,956	31.8
特別損失	667,192	486,765	180,427	37.1
過年度損益修正損	667,192	486,765	180,427	37.1
その他特別損失	0	0	0	0
当年度純利益	12,513,594	17,847,123	5,333,529	29.9
前年度繰越利益剰余金	63,034,981	80,882,104	17,847,123	22.1
当年度未処分利益剰余金	50,521,387	63,034,981	12,513,594	19.9

当年度純損失は12,514千円で、年度未処分利益剰余金は50,521千円となっている。

5 貸借対照表（税抜き）

比較貸借対照表は、次表のとおりである。

（単位：円、％）

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
固定資産	3,060,322,583	3,179,002,988	118,680,405	3.7
有形固定資産	3,060,272,283	3,178,952,688	118,680,405	3.7
無形固定資産	50,300	50,300	0	0
流動資産	605,831,567	566,870,613	38,960,954	6.9
現金預金	571,570,843	531,921,619	39,649,224	7.5
未収金	32,802,770	33,379,110	576,340	1.7
貯蔵品	1,457,954	1,569,884	111,930	7.1
資産合計	3,666,154,150	3,745,873,601	79,719,451	2.1
流動負債	4,979,671	15,099,779	10,120,108	67.0
未払金	4,979,671	15,099,779	10,120,108	67.0
負債合計	4,979,671	15,099,779	10,120,108	67.0
資本金	1,569,111,266	1,626,269,515	57,158,249	3.5
自己資本金	629,351,229	629,351,229	0	0
借入資本金	939,760,037	996,918,286	57,158,249	5.7
剰余金	2,092,063,213	2,104,504,307	12,441,094	0.6
資本剰余金	1,821,712,312	1,821,639,812	72,500	0.0

利益剰余金	270,350,901	282,864,495	12,513,594	4.4
資本合計	3,661,174,479	3,730,773,822	69,599,343	1.9
負債・資本合計	3,666,154,150	3,745,873,601	79,719,451	2.1

6 審査意見

(1) 事業の状況について

平成 24 年度給水の状況について、給水人口は、7,622 人で前年比 114 人（1.5%）減少した。給水戸数は 3,267 戸で前年比 18 戸（0.5%）減少している。

また、年間総配水量は、1,101,208 m³で前年度より 25,866 m³（2.3%）減少している。年間有収水量も 967,817 m³で前年度より 12,529 m³（1.3%）減少し、3,674 千円の減収要因となっている。

有収率は 87.9%で、配水管損傷等による大きな漏水はなく、前年比 0.9 ポイント改善した。

給水人口・給水戸数とも人口減に伴い減少し、給水収益も減少している。今後も少子化の進展により、給水人口・給水戸数とも減少が予測されるため、この状況に見合った経営が必要である。

(2) 損益の状況について

営業収益	193,793千円	(前年比 3,715千円)
営業費用	189,303千円	(前年比 18,614千円)
営業利益	4,490千円	(前年比 14,900千円 漏水事故補償金減)
営業外収益	3,121千円	(前年比 10,736千円 漏水事故保険金収入減)
営業外費用	19,458千円	(前年比 1,350千円 支払利息)
経常損失	11,847千円	(前年比 5,513千円)
特別損失	667千円	
当期損失	12,514千円	(前年比 5,333千円)

赤字要因は、給水収益の減少 3,674 千円と水道管除去損 8,838 千円の計 12,512 千円が主たる要因となっている。

北近畿豊岡自動車道整備に関連した改修工事で、水道管布設替工事 7,809 千円の設備に関して 7,000 千円の起債を行っているが、当事業会計は手元流動資金が十分あるので少額の改修工事等については自己資金で行い、大型の新規設備工事等は有利な起債を活用する等、取捨選択により債務の圧縮を図らりたい。

また、給水原価は、有収水量 1 m³当たり 215.56 円、供給単価は 198.93 円で給水原価が高いことも収益悪化の一因となっている。

収益改善のために、経費の削減、及び老朽化した給配水管の修繕・更新の維持管理を計画的に行い、有収率の改善を図らりたい。

第2 養父市氷ノ山国際スキー場事業特別会計

1 総括

平成24年度の氷ノ山国際スキー場事業の決算額は索道事業収益70,900千円、索道事業費用116,025千円で45,125千円の赤字となり、前年度繰越欠損金293,667千円に今期分を加算した額338,792千円が当年度未処理欠損金となった。

営業状況は、北近畿豊岡自動車道八鹿・氷ノ山インターの開通により、入山者の大幅増加が期待されオープンした。シーズンを通じ降雪量に恵まれ入山者数も増加傾向にあったが、結果として業績面への大きな寄与はなかった。営業状況は下記のとおり。

不足する資金を補てんする財源がないため、他会計から10,000千円を借入している。

平成24年度の事業概要は、次表のとおりである。

区 分	平成24年度	平成23年度	前年比	平成22年度
営業日数(日)	66	88	22	82
入山者数(人)	19,529	20,798	1,269	20,471
輸送延人員(人)	317,783	366,822	49,039	371,261

2 決算状況

(1) 収益的収入及び支出(税抜き)

収益的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成24年度	平成23年度	増減額	増減率
1 款 索道事業収益	70,900,483	57,431,764	13,468,719	23.5
1 項 営業収益	43,807,940	48,813,299	5,005,359	10.3
2 項 営業外収益	27,092,543	8,618,465	18,474,078	214.4
2 款 ロッジ販売事業収益		1,239,230	1,239,230	
1 項 営業収益		1,239,230	1,239,230	
計	70,900,483	58,670,994	12,229,489	20.8
1 款 索道事業費用	116,025,811	112,704,833	3,320,978	2.9
1 項 営業費用	111,707,894	108,692,388	3,015,506	2.8
2 項 営業外費用	4,317,917	4,012,445	305,472	7.6
2 款 ロッジ販売事業費用		4,820,910	4,820,910	
1 項 営業費用		4,820,910	4,820,910	
2 項 営業外費用		0	0	
3 款 予備費	0	0	0	0
計	116,025,811	117,525,743	1,499,932	1.3

(収 入)

索道事業の営業収益は43,808千円で前年に比べ5,005千円の減少となった。

営業外収益の増加は、索道等の修繕補助金である。

(支 出)

索道事業の営業費用は前年に比べ 3,016 千円増加した。

その主な理由は、営業費用のうち修繕費が 20,900 千円増加したことによる。

(2) 資本的収入及び支出(税抜き)

資本的収入及び支出の状況は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
1 款 資本的収入	39,200,000	39,200,000	0	0
1 項 他会計補助金	39,200,000	39,200,000	0	0
1 款 資本的支出	39,200,000	39,200,000	0	0
1 項 企業債償還金	39,200,000	39,200,000	0	0

資本的収入は、資金不足を補うための他会計補助金 39,200 千円を受け入れして企業債償還金に充当している。

3 損益計算書 (税抜き)

比較損益計算書は、次表のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
営業収益	43,807,940	48,813,299	5,005,359	10.3
運輸収益	39,649,444	44,378,170	4,728,726	10.7
駐車場収益	3,019,556	4,396,854	1,377,298	31.3
自動販売機収益	1,096,723		1,096,723	
雑収益	42,217	38,275	3,942	10.3
営業費用	111,707,894	108,692,388	3,015,506	2.8
索道運転費用	68,510,153	56,810,048	11,700,105	20.6
運輸管理費	3,705,423	3,925,746	220,323	5.6
旅客誘致費	1,240,487	969,927	270,560	27.9
一般管理費	5,456,624	10,117,395	4,660,771	46.1
ロッジ管理費	1,685,931		1,685,931	
減価償却費	30,697,776	36,869,272	6,171,496	16.7
資産減耗費	411,500		411,500	
営業利益	67,899,954	59,879,089	8,020,865	13.4
営業外収益	27,092,543	8,618,465	18,474,078	214.4
他会計補助金	26,330,475	6,974,317	19,356,158	277.5
雑収益	762,068	1,644,148	882,080	53.6
営業外費用	4,317,917	4,012,445	305,472	7.6
支払利息	1,507,425	2,384,003	876,578	36.8

雑支出	1,182,050	0	1,182,050	100.0
繰延勘定償却費	1,628,442	1,628,442	0	0
営業外利益	22,774,626	4,606,020	18,168,606	394.5
索道の経常利益	45,125,328	55,273,069	10,147,741	18.4
ロッジ営業収益		1,239,230	1,239,230	
営業収入		0	0	
その他営業収入		1,239,230	1,239,230	
ロッジ営業費用		4,820,910	4,820,910	
食堂管理費		1,729,972	1,729,972	
減価償却費		3,090,938	3,090,938	
営業利益		3,581,680	3,581,680	
経常利益合計	45,125,328	58,854,749	13,729,421	23.3
当年度純利益	45,125,328	58,854,749	13,729,421	23.3
前年度繰越欠損金	293,666,901	234,812,152	58,854,749	25.1
当年度未処理欠損金	338,792,229	293,666,901	45,125,328	15.4

営業収益は 43,808 千円で、前年度に比べ 5,005 千円(10.3%) 減少しており、営業損失も 8,021 千円増の 67,900 千円となっている。

当年度純損失は 45,125 千円となっており前年度繰越欠損金 293,667 千円を加算して、当年度未処理欠損金は 338,792 千円となった。

4 貸借対照表 (税抜き)

比較貸借対照表は、次のとおりである。

(単位:円、%)

区 分	決 算 額		対前年度	
	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額	増減率
固定資産	202,441,803	233,551,079	31,109,276	13.3
有形固定資産	202,280,203	233,389,479	31,109,276	13.3
無形固定資産	161,600	161,600	0	0
流動資産	54,029,342	45,759,306	8,270,036	18.1
現金預金	53,991,792	40,616,465	13,375,327	32.9
未収金	37,550	5,142,841	5,105,291	99.3
繰延勘定	7,925,667	9,554,109	1,628,442	17.0
開発費(ゲレンデ整備)	7,925,667	9,554,109	1,628,442	17.0
資産合計	264,396,812	288,864,494	24,467,682	8.5
固定負債	245,000,000	235,000,000	10,000,000	4.3
他会計借入金	245,000,000	235,000,000	10,000,000	4.3
流動負債	46,616,780	34,092,468	12,524,312	36.7
未払金外	46,616,780	34,092,468	12,524,312	36.7
負債合計	291,616,780	269,092,468	22,524,312	8.4
資本金	160,815,592	200,015,592	39,200,000	19.6

自己資本金	80,186,592	80,186,592	0	0
借入資本金	80,629,000	119,829,000	39,200,000	32.7
剰余金	188,035,560	180,243,566	7,791,994	4.3
利益剰余金	188,035,560	180,243,566	7,791,994	4.3
資本合計	27,219,968	19,772,026	46,991,994	237.7
負債・資本合計	264,396,812	288,864,494	24,467,682	8.5

資産の合計は 264,397 千円で、前年度に比べ 24,468 千円減少している。固定資産は 202,442 千円で、有形固定資産の減少により、前年度に比べ 31,109 千円（13.3%）減少している。

負債合計は 291,617 千円で、前年度に比べ 22,524 千円増加している。本年度も、一般会計から 10,000 千円借り入れている。

資本の合計は 27,220 千円で、前年度に比べ 46,992 千円（237.7%）減少している。資本金は前年度に比べ 39,200 千円減少している。

5 企業債

（単位：円）

前年度末現在高	本年度借入額	本年度償還高	本年度末残高
78,400,000	0	39,200,000	39,200,000

6 他会計借入金

（単位：円）

前年度末現在高	本年度借入額	本年度償還高	本年度末残高
276,429,000	10,000,000	0	286,429,000

7 一時借入金

（単位：円）

前年度末現在高	本年度借入額	本年度返済額	年度末残高	備考
0	0	0	0	

8 審査意見

（1）営業の状況について

平成 24 年度は、11 月 24 日に北近畿豊岡自動車道八鹿・氷ノ山インターチェンジの開通により、入山者の大幅増加が期待されオープンした。シーズンを通じ降雪量に恵まれ入山者数も増加傾向にあったが、平成 25 年 3 月 1 日、春一番の突風に見舞われ、パノラマリフトに重大な事故が発生した。

幸い、人身事故はなく物損事故に終わった。安全対策対応のため、年度途中での営業中止を余儀なくされた。その結果、営業状況は下記のとおり、営業日数・入山者数・輸送人員とも、前年より減少し業績悪化となった。

営業日数	66日	前年比	22日減
入山者数	19,529人	前年比	1,269人減
輸送人員	317,783人	前年比	49,039人減

(2) 損益の状況について

営業収益	43,808千円(前年比 6,244千円)
営業費用	111,708千円(前年比 1,806千円 索道修繕費24,823千円増)
営業損失	67,900千円(前年比4,438千円)
営業外収益	27,093千円(うち他会計補助金26,330千円)
営業外費用	4,318千円(うち支払利息1,507千円)
当期損失	45,125千円(前年比13,729千円改善)

「前年比」については、平成24年度からロッジ販売事業勘定が無くなったため、それを加味した数値となっている。

上記のとおり平成24年度も売上高より営業費用が大幅に上回り、45,125千円の赤字決算となり、繰越損失は338,792千円となった。

平成24年度、市の財政負担は下記のとおり

他会計補助金	39,200千円(企業債償還金)
新規借入金	10,000千円(赤字補填資金)
他会計補助金	26,330千円(索道修繕費他)
合計	75,530千円(前年比9,356千円増加)

(3) 当事業特別会計の今後の対応について

平成25年度、養父市氷ノ山国際スキー場事業特別会計は、指定管理者制度導入のため「指定管理者募集要項」により募集を行った。

平成24年度決算において、同事業特別会計の繰越損失は338,792千円と多額な損失を計上している。平成25年度、指定管理移行に伴い、当会計は収入のない事業会計となる。債務超過となっている当事業会計の清算・整理については喫緊の課題であり、今後の対応についてその方向性を提示されたい。